

親をボケさせない介護

丸尾多重子

「つどい場さくらちゃん」の大切なメンバー、トミちゃんが、1月3日、息を引き取りました。99歳でした。

毎年恒例行事の年越しで、12月31日から「さくらちゃん」へ娘さんと泊まりがけで来ていたのですが、元旦はミルで食べやすくしたおせちとおとそで新年のお祝い。夜にはシャンパンを飲み、カニを堪能。

2日はひたすら眠り、3日は大好きなすき焼きを卵とご飯で食べ、デザートのアイスクリューを3口。そして夜7時50分、下顎呼吸を数回し、穏やかに旅立ちました。下顎呼吸とは、死に至る時に見られる、下顎を上げてする呼吸です。

亡くなる直前、水分摂取が口からできなくなり、娘さんが思わず「点滴を」と口にしたのですが、主治医は首を横に振りま

亡くなるその日もすき焼きを堪能

した。

「余分な水分」を点滴で入れなかったこと
で、最期の時まで、トミちゃんは苦痛を全く感じなかったのです。

2カ月前には、仲間たちと沖縄旅行。1週間前のクリスマスには中華料理でビールをグビツ。トミちゃんは要介護5でしたが、「だから、できない／やっではいけない」ということは何もなかった。まさに、生ききった！ あっばれです。

トミちゃんの人生は、決して特別なものではありません。あなたのご家族も、ご自身も、望むなら可能にできる生き方なのです。

▶まるお・たえこ 10年間母、兄、父を在宅介護。2004年に介護者や介護従事者らの交流の場「つどい場 さくらちゃん」設立。「ばあちゃん、介護施設を間違えたらもっとボケるで！」を共著で上梓。